

令和6年度 第3回学校運営協議会
(兼 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業地域連携組織)
議 事 録

日時 令和7年3月4日(火) 13:30～16:00

場所 岡山県立勝間田高等学校 記念館3階会議室

(委員15名のうち12名が出席(うち1名はオンライン参加))

1 開会行事

- (1) 校長挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 事務局より

2 令和6年度 学校運営に関する評価

(1) 教育活動報告

- 生徒募集状況
- 令和6年度学校運営協議会意見申出書の説明
- 進路状況
- 令和6年度の主な事業と予算(執行状況)
- 高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業取り組みに関する評価指標について

(2) 質疑応答

質問なし

(3) 学校評価

- 学校評価書
- 学校自己評価アンケート

【議長】

学校評価書の4つの項目について項目ごとに評価を行っていききたい。まず1の「学力向上」の項目についてはいかがか。

1 学力向上 …自己評価と同様の評価 B で賛成

【議長】

次に、2の「生活習慣の確立」についてはいかがか。

2 生活習慣の確立 …自己評価と同様の評価 B で賛成

【議長】

次に、3の「進路実現」についてはいかがか。

3 進路実現 …自己評価と同様の評価 B で賛成

【議長】

最後に、4の「情報発信・広報」についてはいかがか。

私としては、生徒募集が少ないのは、学校だけの責任ではないと思う。CではなくBでよいのではないか。

【委員A】

先ほどの自己評価アンケートの結果などを見れば、情報発信についての評価は、生徒も保護者もあがっており、情報発信自体はうまくいっているのではないかと評価はBでよいのでは。

【議長】

情報発信についての教務課の項目はC評価からB評価に変更でよいか。

(全員が承認)

【議長】

全体の評価はどうするか。

4 情報発信・広報 …自己評価はBだが、評価 A で賛成

【委員B】

さまざまな活動については、SNS だけでなく、新聞紙上などでも発信してほしい。

【議長】

多くの方に活動を知っていただくことは必要。さらに、今度に向けてご意見をいただけたら。

【事務局】

課題研究および総合的な探究の時間の発表会については、昨年度は新聞社が取材に来てくれていた。今年度もプレスに流していたが、取材はなかった。タイミングが遅かったのかもしれない。来年はより早くプレス発表をしようと思う。来年は市役所や新聞社に直に行った方が、スピード感があると感じている。

昨年度、この会議で課題研究および総合的な探究の時間の発表会に中学生に招いてみてはどうかというご提案をいただいたので、勝央中さんに声をかけたが、参加が難しいと参加が見送られた。引き続き、来年度も声をかけてみようと思う。また、中学生が参加しやすい形も検討していきたい。

～10分休憩～

3 令和7年度学校運営基本方針協議

(1) 令和7年度学校経営計画書(案)

①説明

②質疑応答

【校長】

SNS については、子どもの方がよく使っている。SNS は子どもが勝手にアクセスしているもの。一人一台端末の活用で、中学生が気になる高校を調べてみようとした時に、一番見に来るのはHP。例えば、Facebook などは、見ようと思うとIDが必要となるが、HPはIDなしで必ず見ることができるし、いろいろな情報を網羅的に掲載しているサイトなので、中学生が学校主体で行う進路学習で見てもらいたい情報媒体として一番使われているのがHP。

【事務局】

補足ですが、今年は、HP を教員でも更新がしやすいように高校コーディネーターに変えてもらっている。ブログもしばらく更新が止まっていたが、ブログの更新もでき、ブログ更新への教員の意識も高まっている。来年も更新のペースがあがればと思っている。

【議長】

HP で気をつけてないといけないのは、いつまでも古い情報を置いておくこと。それは、マイナスイメージにつながってしまうので、気をつけていただきたい。

【委員D】

SNS は限られた人にしか見えない。だから、写真をプリントして公民館に置いたりしている。SNS の情報は一時的な情報で、点の情報。その情報だけで理解するのは難しい。HP はハブ機能を持っているので、受け皿として絶対に必要なもの。SNS で情報を広げて、しっかりとした情報を HP で見る流れが大切。

【議長】

③承認または修正

承認

(2) 令和7年度主要事業予算

①説明

②質疑応答

質問なし

③承認または修正

承認

(3) 令和8年度教育課程について

①説明

②質疑応答

質問なし

③承認または修正

承認

4 情報交換等

【議長】

全体を通して、来年に向けて何かご意見やご指摘がありましたらお願いしたい。

【委員E】

勝間田高校ではインターンシップはされているか。今、愛媛県や大分県や長崎県では、インターンシップではなく、バイターンシップというのが盛り上がっている。企業は、インターンシップの際に、なかなか本音でぶつかれない。そこで、給料を出す代わりに、その仕事の厳しさを見せるというやり方が広がってきている。そうした新しいアイデアを入れてみてはどうか。

【議長】

いつも貴重な意見をありがとうございます。県北は人口減少の中で、県立高校は結構厳しい状況にある。我々もいろいろと苦労して何とか魅力化につなげ、そして多くの学生が勝間田高校を目指してくれるように頑張っているが、いかんせん、この少子化はなんともしがたいところがあり、行政も責任を感じている。今後も、さらに専門高校としてより魅力があるものにするために、我々も頑張っていくので、今後ともいろいろとご協力をお願いしたい。

【委員F】

保護者から学校に求めることと学校がそれに答えてくれていることに関して、まだまだ改善の余地がある。そうした投げ掛けを今後も保護者として行っていきたい。

【委員G】

卒業式に出席したが、みなさんが言われたように、学校全体が落ち着いてきている。具体的に言うと、体育館に入って1、2年の前を通ると、前列の子たち全員が挨拶をしてくれた。送辞の生徒が、全国植樹祭の内容についての話をしていたが、あれだけの大きな式典なので、それだけの苦勞をしていたんだということがよくわかった。答辞もでしたが、子どもたちがあのような言葉で話ができたとすることは、勝間田高校の教育成果が出ていると感じた。地域と連携し、地域の教育資源を活用しながら、また、勝間田高校の教育資源を地域に戻していくという循環的な教育のスタイルなど、地域との連携がより見える体制になってきているというのは、頼もしく感じている。生徒募集や学校の魅力につながる土台はできている。しかし、生徒募集は年によって変わっていく。来年度以降の入学者をいかに確保していくのかは、大きな課題であることは間違いない。

【委員D】

人材不足を切に感じている。人手不足を解消する一つはAIだと思っている。AIからは逃げてはいけけない。AIは、人手不足を解消するととても良いツールである。AIで代用できる仕事はたくさんあると思う。「1分でも大切な人と過ごす時間を」という見方をし、AIを使って時間短縮をしてほしい。来年も機会があればAIのフォローをさせてもらい、人手不足の解消につながることをできたらと思う。

【委員A】

3点あります。まず、1点目ですが、今、津山朝日新聞がYahoo!ニュースと提携していて、津山朝日新聞の記事がYahoo!ニュースに出る仕組みになっている。こうした仕組みをうまく活用してみてもどうか。

また、部活にも力を入れてほしい。例えば、ドローン部など勝間田高校ならではの特色ある部活動を作り、地域の方と一緒に運営ができるなど、魅力の一つを部活動から考えていくのもありなのではないか。

あとは、就職の面でもこういった企業に就職できるのかなどもうまくPRしていけたらいいのではないか。

【委員H】

勝間田高校の良さを出していけばいいのではない。県北にこれほど産業のことを学べる学校は他にない。中学生が高校を選ぶ時に、産業のことをまだまだ理解していない面がある。

また、先ほどバイターンシップの話聞いて、非常にいいのではないかと考えた。

【委員I】

この会には第1回から関わっているが、確実に時代のニーズや外部に対してやらなければならないことはできてきていると感じている。しかし、なかなか周囲の受検生からは「勝間田高校へ」という声が聞こえない。質問してみると、どんなコースがあるのかなどを親や地域の方が知らない。勝央町の人たちも知らない人がたくさんいる。学校運営協議会の委員は、地域から選ばれて、学校で解決できないことを我々が一緒になってやるということがスタンスだと思うが、その立場から見ると、勝間田の人たちが、勝間田高校のことを話せるようになることが大切なのではないか。店にポスターを貼るだけでも、質問が

くる。定員募集は地道な作業になる。デジタルとアナログを駆使し、クチコミで勝間田人を味方につけるという原点に戻ってみる価値があるのではないか。

【委員J】

勝英のアスパラガスを元気にしようという取り組みをしているが、元気にするためには、地元でしっかり認知度をあげることが大切だということで、勝間田高校とコラボして新しい商品を開発することになった。勝間田高校の生徒にアスパラガスを認知してもらえ、反対に、試作したものを農家の人に食べてもらおうと、勝間田高校に協力してもらっているということで「じゃあ、がんばろう」と元気が出て、農業にも高校にも相乗効果があると思う。商品開発については、引き続き協力をお願いしたい。

【委員B】

勝間田高校は本当によく頑張っている。地域貢献だけでなく、挨拶もきちんとできし、問題行動も減ってきている。勝央町としては、小中高で問題行動について、生徒指導の先生で話し合っている。今、通信制へ行く子が増えている。県南に行ってしまう子もいる。勝間田高校の良さの自然とふれ合う機会が多いことに、興味を持っている子もたくさんいると思う。勝間田高校に行けば、これができるということを訴えることや、勝間田高校の学校評価を高めることも必要なのではないか。

【委員E】

勝間田高校もいろいろとやっているが、話を聞いていると、地元の人に届いていないと感じる。来年はその点を強化するように整備していったらいいと思う。

【議長】

貴重な意見を多くいただいた。昨年は、勝央町も勝間田高校にはご協力をいただいた。特に、森林コースのレーザー加工機は、素晴らしく好評で人気がある。こうしたものを活かして、生徒たちに特産品を作って、それをPRしてみてもいいのではないか。

私立と公立では学校の運営は違うが、公立高校も型どおりの教育では社会にも通用しないし、私立高校にもなかなか太刀打ちできないのではないか。公立高校は税金を投入しているということもあるが、打開していく必要もあり、行政を預かる私たちもいろいろと要望していきたい。

勝央町はモンゴルのウブルハンガイ県と姉妹都市縁組みをしているが、1月に学校訪問させていただき、訪問団はとても喜んでた。今、モンゴルは日本にとっても興味を持っていて、留学生を受け入れてくれるなら行かせたいという気持ちを持っている。いきなりそこまでは難しいかもしれないが、夏休みなどを利用して交流するなどしてみれば、それも勝間田高校の魅力につながるのではないかと考えている。もし、そうしたことが可能なら、勝央町としても支援、協力をしたいと思っている。

7 閉会行事

(1) 校長より

(2) 事務局より

①来年度の学校運営協議会について

委員の任期は1年だが、再任は妨げないため、3月に打診

②その他

来年度の入学式の案内 4月9日(水) 9:30開式